2022年5月

2021年度
事業報告書

香川国際協力NGO　*U-dawn*

作成

1期代表：矢野晴美
1期事業局長：栗林香穂

代表挨拶

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

香川国際協力NGO U-dawnは、2022年4月11日に設立から一年を迎えました。

この一年は多くの方々との出会いとご協力により、我々の想像以上に勢いある一年になったと感じております。

「今日の笑顔を守り、明日の可能性を広げる。」
このビジョンのもと、皆で悩み、考え、行動していく中で、ありがたいことにたくさんの温かい応援をいただきました。
設立間もない当団体に知恵をお貸しいただいた皆様、クラウドファンディングや募金を通してご支援をいただいた皆様、そして私たちの思いに応えてくださった支援先の皆様へ、団体を代表しまして厚く御礼申し上げます。

私たちが目指すビジョンの達成はまだずっと先にあります。
次の一年も、U-dawnが進み続ける一年となるよう会員一同全力で取り組んで参りますので、これからも何卒よろしくお願いいたします。

まずは私たちの最初の一歩を、この事業報告書を手にとってご覧いただけたら嬉しく思います。

初代代表　　矢野　晴美

事業局長挨拶

お忙しい中、香川国際協力NGO U-dawnの事業報告書をご覧いただきありがとうございます。
U-ｄａｗｎは、初代代表を筆頭にたった４人のメンバーから始まりました。

設立当初は、「何もないからこそ、何でもできる。」
その思いを胸に、とにかく走り続けました。

活動していく中で、徐々に同じ志を持つ仲間が増え、より大きなことにも挑戦できるようになりました。そしてその挑戦の過程で、非常に多くの方々に支えていただきました。

今のU-ｄａｗｎがあるのは、U-ｄａｗｎに関わっていただいた全ての方々のおかげです。
まずは、事業局長として皆様への感謝をお伝えいたします。誠にありがとうございます。
そして、初めて U-dawnの存在を知った方々については、この事業報告書を通して当団体への理解を深めていただければ嬉しく思います。
私たちの挑戦が、少しでも皆様の心を動かせたなら、幸いです。

初代事業局長　　栗林　香穂

目次

団体説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.1-2
2021年度活動ハイライト ・・・・・・・・ p.3
支援事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4-9
クラウドファンディング報告 ・・・・・ p.10
2021年度会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・p.11

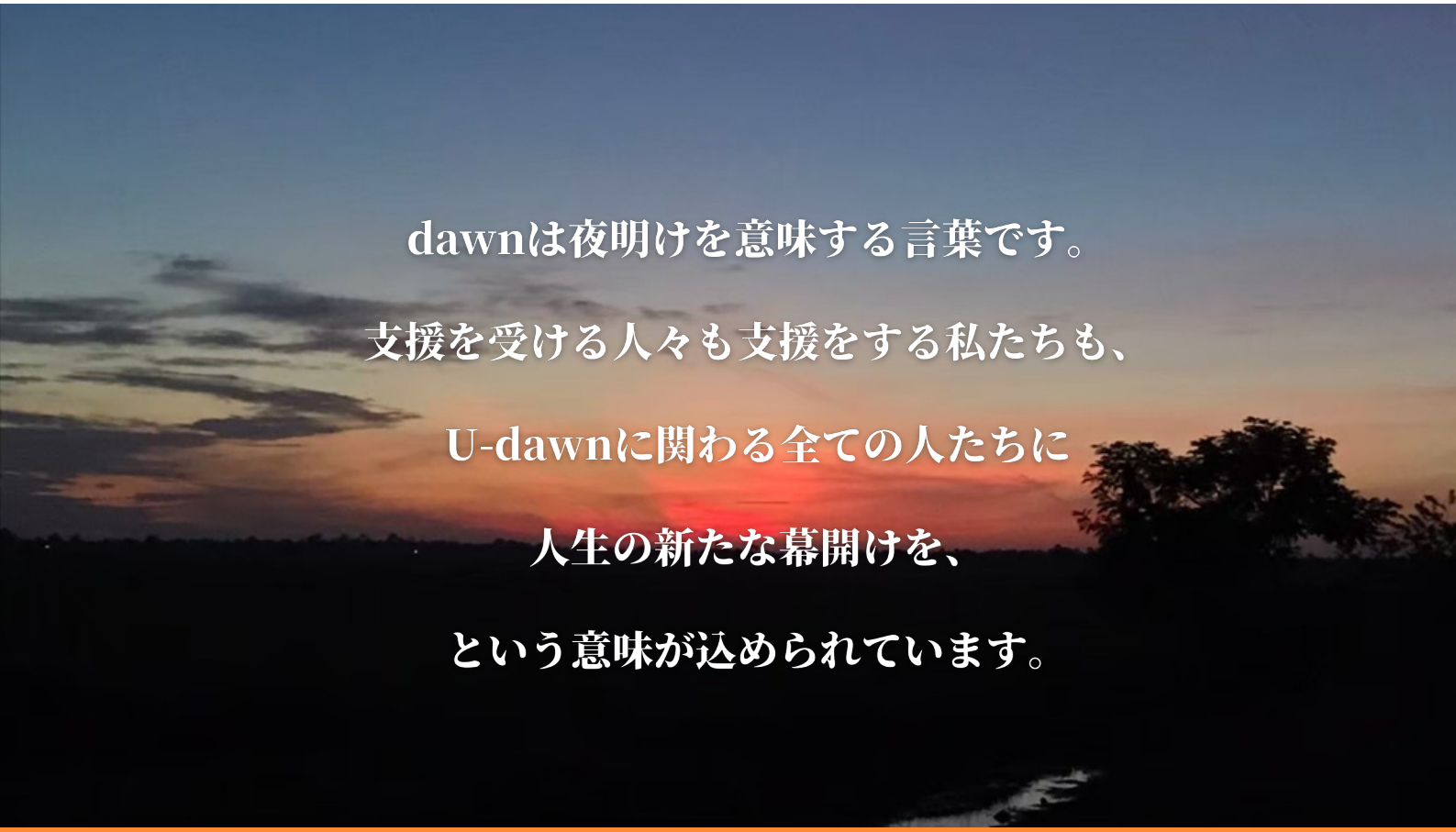
団体説明

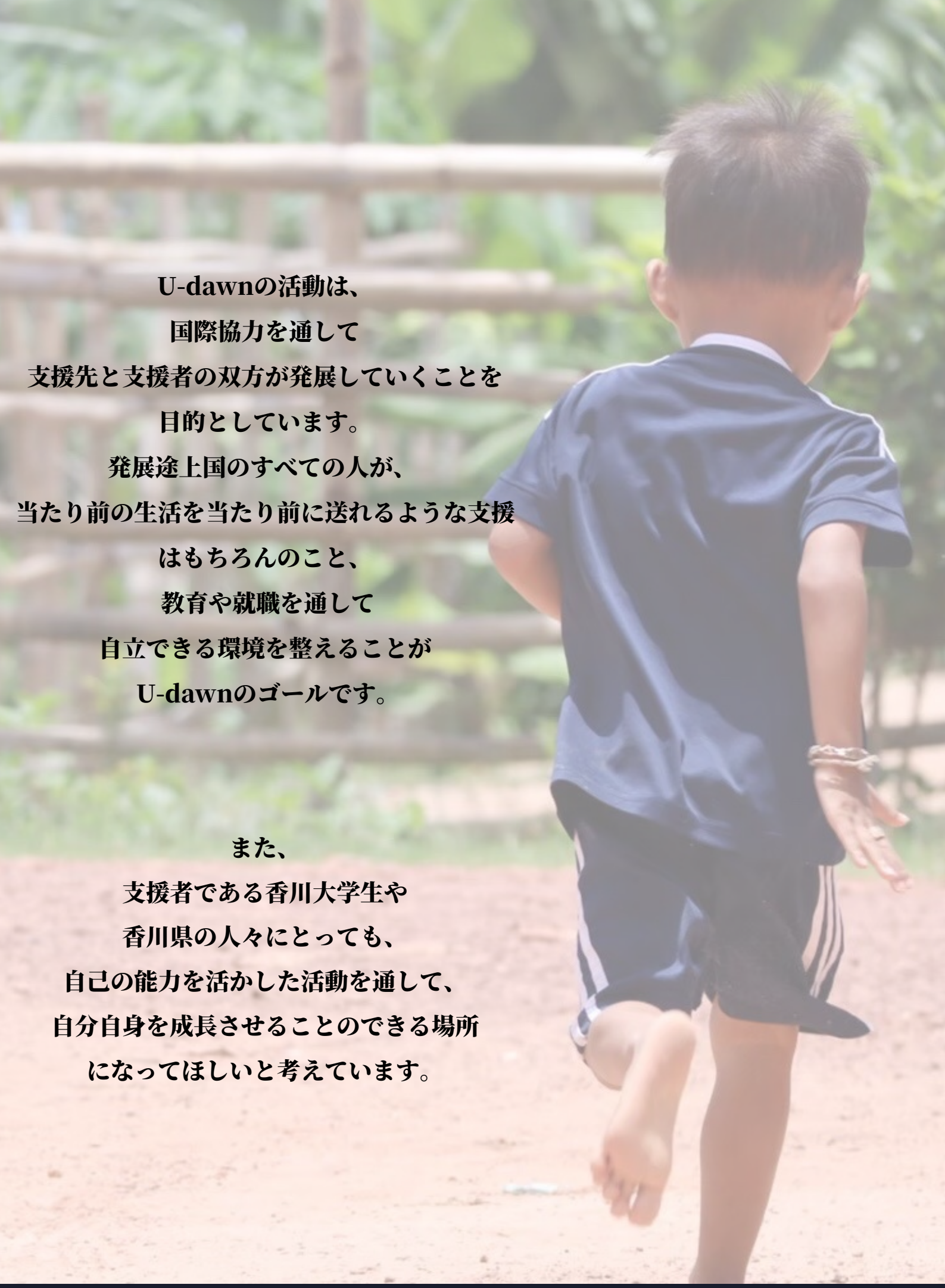
団体概要

名称：香川国際協力NGO U-dawn（ユードーン）
設立年月日：2021年4月11日
会員数：30人（2021年5月現在）

団体理念

VISION
今日の笑顔を守り、明日の可能性を広げる
MISSION
すべての人の、当たり前の生活を維持するための支援と、
さらなる可能性への足掛かりとなる活動への取り組み





U-dawnの活動は、
国際協力を通して
支援先と支援者の双方が発展していくことを
目的としています。
発展途上国のすべての人が、
当たり前の生活を当たり前に送れるような支援
はもちろんのこと、
教育や就職を通して
自立できる環境を整えることが
U-dawnのゴールです。

また、
支援者である香川大学生や
香川県の人々にとっても、
自己の能力を活かした活動を通して、
自分自身を成長させることのできる場所
になってほしいと考えています。

2021年度活動ハイライト

2021.4.11 「香川国際ボランティアサークル U-dawn」設立
7.16,25 zoom新歓
7.26 日本赤十字看護大学NACEFとZoomMTG
7.31 学生医療支援NGO GRAPHISとZoomMTG
8.20 **Side By Side International(SBSI)佐々木明子さんとZoomMTG**
9.21 カンボジア日本語ガイド Boral Kimさん、Sok SophonさんとZoomMTG
9.27 University of Health Science学生Ly RathanaさんとZoomMTG
10.3 アンコール大学観光学科Thom RakさんとZoomMTG
11.6 アンコール大学学生への日本語教室
11. 大学周辺うどん店等に募金箱設置開始
12.13 クラウドファンディング開始
12.17 クラウドファンディング40万円のゴール達成
2022.2.1 団体名称が「香川国際協力NGO U-dawn」へ変更
1.25 NOP法人あおぞら アドバイザリースタッフ 嶋岡鋼先生とZoomMTG
1.26 **朝日新聞に記事掲載**
1.31 **クラウドファンディングネクストゴール80万円達成、終了**
2. 香川大学医学部小児科 安田真之先生・株式会社高研と医療機器選定
2.11 佐々木さん、国立カルメット病院新生児科医Phearith先生とZoomMTG
3.11 佐々木さん、国立クメールソビエト友好病院小児科医Ponloeu先生とZoomMTG
3.11 運営選挙発布
3.18 運営選挙終了
4.1 運営交代式

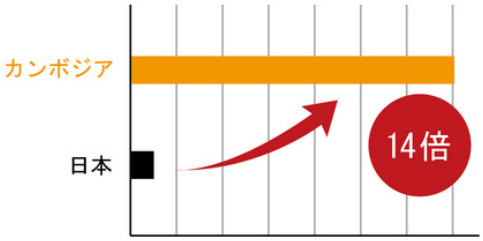
支援事業報告

医療支援プロジェクト

事業概要

カンボジアで活動中のNGOや現地医学生など様々な方から現地の医療事情について聞き取りを行った結果、カンボジアでは新生児の死亡率が非常に高いことが分かった。
カンボジアの医療者が新生児蘇生について学ぶ機会があまりないこと、
それに伴う設備や教材が不足していることが原因の一つであると考え、
医療者のスキルアップに必要な新生児蘇生の訓練器具を贈ることとした。
購入のための資金はクラウドファンディングによって集めた。
現地で新生児蘇生法講習会を開くため、現地の医師とのミーティングを重ねた。

新生児死亡率　比較グラフ



カンボジアの新生児死亡率は、
日本の14倍に及ぶ。

※「ユニセフ世界子供白書2021」より

新生児死亡率：
生後28日以内に死亡する確率。
出生数1,000人あたりで表される。

● 現地の方からの声 ●
(SBSI佐々木明子さん)

カンボジアでは悲惨な歴史の影響もあり、医療体制が未だ不十分なのが現状です。特に都市から離れた地方の医療施設には、基本的な医療機器や専門的知識をもった医師や看護師が不足しています。医療機器ももちろん必要ですが、医療教育の向上はカンボジアの大きな課題であり、保健省が大いに取り組んでいます。しかし、カンボジア語に翻訳された教科書や専門書が少なく、訓練の設備や機会も大いに限られています。その一つが心肺蘇生法です。日本では当たり前に受けられる救命講習や、それに使う訓練人形はあまりありません。一度も練習したことがない医療者が大勢います。成人向けの蘇生法を学ぶ機会は幾らか増えてきたものの、まだ新生児や乳児の蘇生法、とりわけ気管挿管技術の習得は学ぶ機会が限られていて現地の医療者たちが要望しています。

カンボジアには若年層が多く、日々、新しい命が生まれています。しかし、すべての赤ん坊が医療体制の整った都市で生まれてくるのではありません。命の重さは同じでも環境が違います。訓練を通して基本を学んだ人が、いつか他を教えるようになり、カンボジア人がカンボジア人の命を救う助けとなることを私達は願っています。一人でも多くの命を救いたい、そのためにもっと学びたい、そう真摯に願うカンボジアの医療者たちを私達と共にご支援お願いいたします。

2021年活動の記録

**ジャパンハート
カンボジア子供センター
森田医師とMG**

ジャパンハートカンボジア子供センターで医師として
ボランティア活動を行っていた森田皓貴先生に
カンボジアの医療分野での実情をお聞きし、
現地では様々な支援を必要とされていることが分かった。

**学生団体
NACEF、GRAFIS
と交流**

カンボジアを支援する学生団体（NACEF、GRAFIS）と
情報交換をした。
大学生の立場でできることについて考えを深め合った。
GRAFISとの交流では、
カンボジアで医療支援をしている現地のNGO
「サイドバイサイドインターナショナル（以下SBSI）」を
紹介いただいた。

**SBSI
佐々木さんとMG**

現地NGO SBSIカンボジア事務所所長である
佐々木明子さんとミーティングを行った。
カンボジアの問題点について、
現地の方々に寄り添った視点での考えを共有ただいた。
支援をしていく上での実践的な考え方を学ぶとともに、
カンボジアの医療では特に救急分野や周産期の分野について
支援が必要なことが分かった。
SBSIと共に支援を行う協力体制を構築することができた。

**現地協力団体
サイド・バイ・サイド・インターナショナル（SBSI）について**

特定非営利活動法人サイド・バイ・サイド・インターナショナル（SBSI）は、
日本や海外で、貧困や災害その他の困難な状況に直面している人々の生活向上のために、
人道的支援活動を展開しています。
カンボジアでは、国際NGOとして、救急車などの緊急車両の輸送、
公立の119番救急医療体制強化、診療所や病院支援、学校や養護施設の支援も行っています。
最近は、カンボジア赤十字プノンペン支部と交通事故での救急医療支援などの覚書を交わしました。

カンボジア医学生と交流

カンボジアの医学部当時8年生のLy Rathanaさんと情報共有を行い、
カンボジアの医学教育の実態を知った。
クメール語の医学書が不足していることや
カンボジア国内ではBLSがまだまだ普及していないことが分かった。
また、U-dawnの活動を協力して行っていただけるとのことで、
今後、より一層の関係強化を図る。

新生児蘇生の訓練器具を寄付する方針に決定

SBSIの佐々木さんと協議を重ね、
U-dawnは周産期の分野に向けた支援をすることとした。
カンボジアの医師、助産師、看護師など
全ての医療者が新生児蘇生を学べるよう、
訓練に必要な器具をSBSIに寄付することとした。

クラウドファンディング開始

クラウドファンディングを行い、
104名もの方々に、計80万円のご支援をいただいた。
（10ページ参照）

NPO法人「あおぞら」アドバイザリースタッフ嶋岡先生とMG

発展途上国を中心に支援をされているNPO法人「あおぞら」のアドバイザリースタッフである小児科医の嶋岡鋼先生に過去にクラウドファンディングを行った際の経験や、カンボジアで新生児蘇生の普及に取り組まれた際のお話などをしていただいた。このミーティングによってU-dawn全体の、発展途上国の支援に対する意識の統一が図れた。

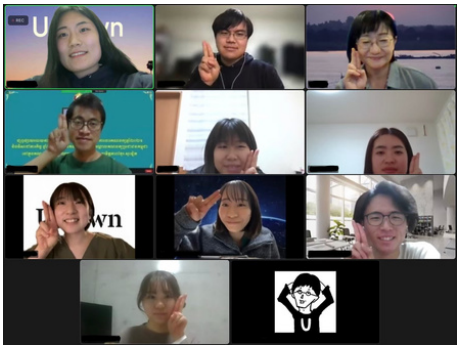
訓練器具購入

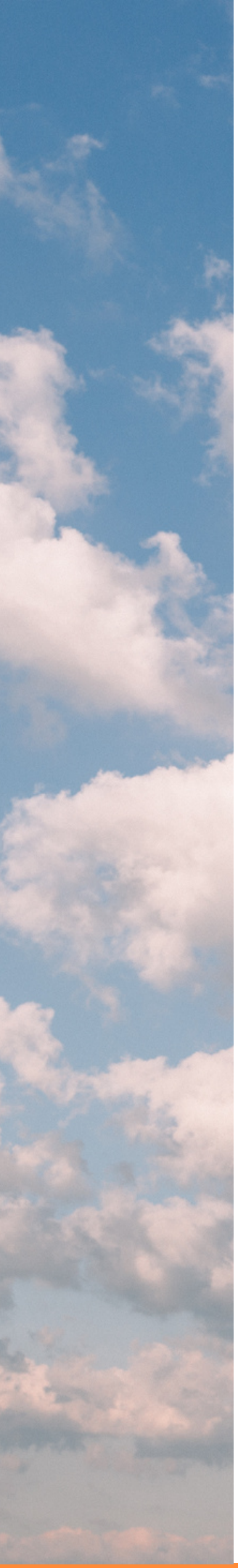
ご支援いただいたお金で訓練器具を購入した。
物品購入に際し、香川大学医学部小児科安田真之先生と株式会社高研さんにご協力いただいた。

寄付物品詳細
- 新生児蘇生訓練用人形×2
- 換気バック・マスク×2
- 喉頭鏡、ブレード×2
- 気管内チューブ　1箱

講習会開催に向けSBSI佐々木さん、現地医師とMG

カンボジアの病院で新生児蘇生法の講習会を行うため、国立カルメット病院新生児科医Phearith先生や国立クメールソビエト友好病院小児科医Ponloeu先生とミーティングを行った。
現地の方々が求める講習会とするために必要な情報を確認することができた。
また、Ponloeu先生が、講習会時のインストラクターとして協力いただけることとなった。





プロジェクトの今後の展望

SBSIと協力し、カンボジアのさまざまな病院
で
U-dawnが寄贈した訓練器具を用いた
新生児蘇生の訓練を行うこと

このプロジェクトで目指すこと

カンボジアの新生児死亡率の低下
＋
医療者に自信がつく事により
カンボジア全体の医療レベルの
向上につながる

**カンボジアの赤ちゃんを救うことは、
カンボジアの未来を救うこと。
新しい命の誕生が、
あたりまえに希望に溢れるもの
になってほしい。**

その他の活動

①ゴミ問題プロジェクト

カンボジアのアンコール大学の
学生を対象にカンボジアの問題点に
ついて尋ねた所、多くの学生がゴミ
問題と回答した。

そのため、カンボジアのゴミ問題の
実情について調査し、
私たちがどのような支援ができるか
を思案した。

②日本語教室

アンコール大学の学生の中で
行われている日本語勉強会に
参加した。

日本で留学や就職をしたり、
カンボジアで日本語ガイドとして働
く事を目標としている学生数名との
交流及び日本の文化について
プレゼンテーションを行った。

③うどん店への
募金箱とポスター設置

香川県内のうどん屋さんに足を運び、
ポスターと募金箱を
設置させていただいた。

クラウドファンディング報告

新生児蘇生用訓練器具を購入するため、
2021年12月13日～2022年1月31日までの50日間、
CAMPFIREにてクラウドファンディングを行った。
開始からわずか3日で目標金額の40万円を達成し、
最終的に80万円もの支援をいただき終了した。

ページURL:https://camp-fire.jp/projects/view/516454
QR コード（ URL と同じページに繋がります。）

リターン品には、
香川県内のうどん屋さんに協力を依頼し、
お土産用うどんや店内で使える割引券などを用意した。
併せて、カンボジアの名産品である胡椒なども用意し、
香川とカンボジアの魅力あふれるものにした。

2022年3月
支援者様にリターンの発送を実施。

2021年度会計報告

〈会計期間：令和 3 年 4 月 11 日～令和 4 年 3 月 31 日〉

単位：円

収入総額	869150
支出総額	838142
差引残高・次年度繰越金	31008

会計報告書

単位：円

収入	会費	48000
	募金	21150
	計	69150

支出	ホームページ費	24152
	雑費	17292
	計	41444

クラウドファンディング会計報告書

単位：円

収入	クラウドファンディング	800000
	計	800000

支出	手数料	72000
	訓練器具購入費	605440
	リターン費	36144
	配送費	30512
	雑費	1182
	講習会費用	51420
	計	796698

上記の通り報告いたします。 令和 4 年 5 月 19 日 代表 会計部長

あとがき

本報告書を最後までご覧いただきありがとうございます。
発足からの1年間、私たちが何を考え行動してきたのか、
皆様に伝わっていれば幸いです。

最後に、ご協力いただいた関係者の皆様、
応援していただいた全ての方々に、
この場を借りて心から御礼申し上げます。

今後も、進化し続ける香川国際協力NGO U-dawnを
何卒よろしくお願いいたします。